平和の大切さを伝えるために

８月６日、令和８年平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）が広島市の平和記念公園で行われ、本市から市内公立中学校・義務教育学校の生徒代表16人と引率教諭１人、市民代表２人の平和使節団が参列しました。

原爆が投下された午前８時15分に黙とうをささげ、原爆被害の恐ろしさを知るため、広島平和記念資料館などを見学しました。

また、平和使節団は10月10日に土浦市民ギャラリーで行われたつちうらクローバースタディ「広島平和使節団体験発表会」で体験発表を行いました。

平和使節団として参加した中学生の平和への想いを紹介します。

問総務課（☎内線2010）



原爆死没者慰霊碑



平和使節団結団式

土浦第一中学校
古瀬 隼さん



８月６日、広島平和記念式典に参加し、平和記念資料館を訪れました。原爆のことは今までも知っていましたが、実際に広島に行き、資料や被爆者の方の話に触れると、「知っている」だけでは分からない重さを感じました。特に、原爆で失われたのは命だけでなく、一人一人の当たり前の日常だったことが心に残りました。今回見たもの、感じたことを、ただの思い出だけで終わらせたくないと私は思いました。

土浦第二中学校
加藤 玄樹さん



平和使節団としての経験の中で、私が強く印象に残っていることは、たった一つの原爆による後遺症が原因で、苦しめられている方々がたくさんいるということです。背中に大火傷を負う、体の一部に斑点ができるなど、様々な悲劇が起きてしまいました。実際に現地に赴いたから分かることや、感じたこと、学んだことを、次の世代に伝え続けていくことが私の使命だと思います。



原爆ドーム前にて

土浦第一中学校
一ノ瀬 りのさん



私は広島に行って、原爆の悲惨さや命の尊さ、平和の大切さを学びました。一発の原爆で多くの尊い命がなくなり、幸せな毎日が辛い毎日へと変わりました。改めて平和の大切さを心から感じました。また、とうろう流しでは、沢山の人がそれぞれの平和への思いをとうろうに込め、平和を願っていました。忘れてはいけない原爆投下の事実と平和の大切さを、私達が語り継いでいきたいです。

土浦第二中学校
梅澤 佑月さん



私は、実際に広島に行き、当時の悲惨さや平和の大切さを学びました。平和記念資料館には原爆が落とされた後の焼きつくされた広島の様子や、ひどいやけどを負い苦しんでいる人々の写真、絵が展示されていました。どれも戦争や原爆の残酷さを物語っていました。今回の派遣を通じて大切だと感じたのは学んだことを周りの人たちに伝えることです。広島の惨状や原爆の恐ろしさを伝えていき、平和な世界へつなげていきたいです。

土浦第三中学校
飯村 健大さん



私は、原子爆弾から強烈な印象を受けました。亡くなった方は35万人を超え、当時の広島市の人口を超えたことには、とても驚き、心が痛みました。そこで、為政者の人々に問います。「新しいヒロシマ・ナガサキをつくるのですか？」

私は、あんな悲惨な光景を二度と見たくありません。今回の広島平和使節団を通して、各国が協力し合い、平和の鐘のような「一つの世界(平和)」が実現してほしいと、心から思いました。

土浦第四中学校
武田 侑真さん

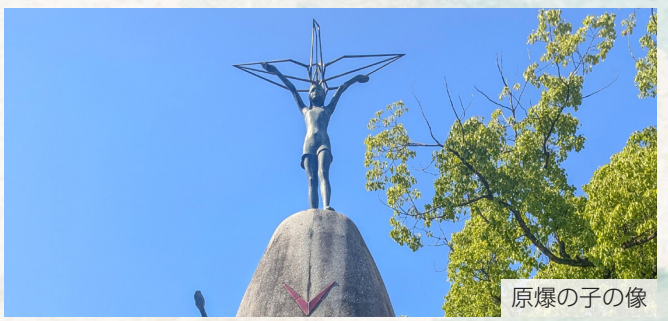


私は、平和記念式典で広島市長がおっしゃった「価値観の異なる人々との国境を越えた交流を深めてください」という若い世代に向けての提案が心に残りました。私たち若い世代が次世代へ戦争の悲惨さを伝えていくために、周囲にいる人だけでなく、世界中での交流を深め、意見を共有し合い、今ある環境に対して日々感謝していくことを決意しました。

土浦第五中学校
川又 直翔さん



私は、今回初めて広島へ行き、今ある平和の尊さや原爆の恐ろしさについて学んできました。今の広島は、百万人を超える人口を抱え、ビルが建ち並ぶ巨大な都市です。過去に原爆によって焼け野原になったとは思えませんでした。今の広島があるのは、先人たちの想像を絶する努力による結果だと考え、彼らに敬意を持って今一度、平和について考え直し、今自分にできることをやっていこうと思いました。



原爆の子の像



平和の鐘

土浦第三中学校
中村 真綾さん



私は広島平和使節団を通して、命の尊さや平和の大切さについて改めて考えることができました。原爆が投下されるほんの少し前まで一緒にいた家族や友人、同僚が自分の目の前で一瞬にして悲惨な姿となる被爆者の心境を想像すると胸が苦しくなります。そのようなことを二度と起こさないためにも、思いやりを持って行動するなど自分たちが平和のために行動することが大切だと思います。

土浦第四中学校
柴原 瑠海さん



私は平和使節団として広島の地を訪れ、実際に様々なことを感じ、学んできました。一番印象的だったのは原爆ドームです。間近で見ると、当時の悲惨さを突き付けられているようで、とても胸が痛みました。まるで81年前で時が止まっているようでした。また、私は平和記念資料館で多くの遺品や資料を目にし、原爆の恐ろしさを肌で感じました。それらを通して、これ以上戦争をくり返してはいけないという思いが強くなりました。

土浦第五中学校
西谷 友希さん



土浦市の平和使節団として、広島平和記念式典に参加したり広島平和記念資料館を見学したりしました。資料館では亡くなってしまった人たちの遺品や家族へ遺した手紙を見て、原爆を実際にあった出来事として感じ、戦争の愚かさや平和の尊さを身をもって知ることができました。だからこそ、この経験を無駄にせず、積極的に家族や友達に伝え、平和について考えるきっかけを広げていきたいです。

土浦第六中学校
青山 周平さん



私は平和使節団の一員として、今年、広島を訪れました。広島平和記念資料館を見学し、原爆の恐ろしさや被爆者の方々の苦しみを知りました。式典では、高市首相のあいさつや松井市長の平和宣言を拝聴し、世界で唯一の戦争被爆国である日本だからこそ、核兵器の危険性や非人道性を世界に伝えていく責任があると感じました。私は、今回の体験を多くの人に伝え、平和について考えるきっかけを作っていきたいです。

都和中学校
加藤 紫月さん



平和記念式典に参加して、私は戦争の恐ろしさと平和を維持することの大切さを深く知ることができました。また、平和記念資料館では原爆によって多くの人々の命が失われてしまったことを知って二度と同じ悲劇を繰り返してはいけないと感じ、核兵器が生んだ広島の惨状を世界に伝えていきたいと考えました。私は、広島の原爆について学んだことを地域の人々に伝えていくことで、戦争のない平和な未来を作っていきたいです。

新治学園義務教育学校
福田 恵介さん



今回広島を訪問し、一番胸にあふれてきたものが多かったのは、被爆者の証言です。これほどまでに戦争・原爆の悲惨さをその場にいるように身近に感じられるものはなく、実際に訪れたからこそ感じられたものでした。

平和の誓いにもありましたが、私たちが「被爆者から直接体験を聞くことのできる最後の世代」であることを理解しました。私たちが責任を持って、後世に、日本から世界へ伝えていきたいです。



つちうらクローバースタディ「広島平和使節団体験発表会」



とうろう流し

土浦第六中学校
池田 陽葵さん



この夏、広島を訪れ、原爆の悲劇が過去ではなく今を生きる私たちに重く問いかけていると実感した。資料館の焼けた衣服や弁当箱は、私と同じ14歳前後の人々が生きた証だった。笑顔や夢、家族との時間、そしてかけがえのない命も奪われたことを感じ、悲痛な思いに駆られた。この衝撃を決して忘れたくない。大人になれば違う視点で考えられるのかもしれない。だからこそ、もう一度広島を訪れ、平和の真価を見つめ直したい。

都和中学校
西川 眞生さん



この度平和使節団に参加して、平和記念資料館の見学、とうろう流しへの参加など、とても貴重な体験をさせていただきました。今回の活動を通し、私たちが今当たり前のように享受している平和の尊さ、原爆は人の尊い命を一瞬にして潰してしまえる事実、その恐ろしさと残酷さについて改めて考えることができました。この体験を身の回りの家族、友人、そして何より後の世代の人々に伝え続けていけるようにしたいと考えています。

新治学園義務教育学校
細田 千桜さん



私は平和使節団として広島を訪問し、戦争の悲惨さや原爆の恐ろしさを以前より深く知ることができました。そして、戦争から81年たった今でも苦しんでいる人達がいることも知りました。原爆は二度と使ってはいけないものです。しかし、核兵器は今も世界に存在しています。原爆によっておきた被害を忘れず、平和な世界をつくるために、自分に出来ることを考え、実践していきたいです。